

(参考様式5)

平成23年度元気な地域づくり計画目標達成状況報告書

都道府県名	市町村名	地区名	計画期間	事業期間
三重県	津市	津	H18~H22	H18~H22

1 施策ごとの評価

(1)ソフト

ア 施策の内容:農業経営の安定を目指す。

イ 施策の実績

(コメント)

--

ウ 施策の効果

(コメント)

--

※ 施策の内容ごと、事業実施主体ごとに記載すること。

(2)ハード

ア 施策の内容: 農業生産の基盤の整備

イ 施策等の実績

(ア)実施計画達成状況

(以下の様式を参考にして記述する。なお、事項欄には、地域計画に掲げた指標を設定するに当たり、施設等の種類ごとに実施計画を設定している場合、また、地域計画に掲げた指標以外に数値目標がある場合、それらを記述すること。)

事業種類	事業内容	助成対象施設等	事業実施主体	管理主体
基盤整備促進	農業生産施設整備	農業用用水施設	津市	津市 (維持管理については、垂水土地改良区、小野田水利組合)
事業量	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
L=8.9km	H18	H22	H23.4.1	

事項	単位	計画時 (18年度)	目標値 (22年度) A	達成状況		備考
				実績値 B	達成率(%) B/A	
農業用用水施設の機能確保 (パイプライン化)	ha	0.0	31.7	31.7	100	
農業用用水施設の機能確保 (畑地帯の排水路整備)	ha	0.0	17.0	17.0	100	

調査年次における実績が計画未達である場合の理由及び改善策(目標年度の報告において達成状況が著しく低い場合は、要領の第5の4の(1)に基づき作成した改善計画及び指導等の状況について添付して報告すること。)

--

(イ)施設等の利用実績

施設等名()

年次	室名	事項	計画	月別利用実績												利用率	
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		計
		利用人数															
		利用日数															
		延べ利用室数															

- (注) 1 事項欄には、地域計画とともに作成した利用計画において使用した指標を記述する。
 2 調査年度における実績が計画未済である場合は、下段に理由及び改善策について記述すること。
 3 目標年度の報告において実績が計画を大幅に下回る場合は、第5の4の(1)に基づき作成した改善計画及び指導等の状況について添付して報告すること。
 4 備考欄には、利用計画、利用実績それぞれの算出根拠を記載すること。
 5 都市農村交流を目的とする施設の場合は、「月別利用実績」欄の実績計の横に()書きで都市農村交流に関する実績を内数で記入し、利用率の算出は()書きの値を使用する。

ウ 施策の効果

(コメント)
 農業用水施設の整備によって、安定した用水供給が確保できたことにより農業経営における生産性が向上した。また、農業用排水施設の整備により、維持管理労力が削減された。

※ 施策の内容ごと、事業実施主体ごとに記載すること。

2 指標の達成状況に関する評価

	指標	目標値A	実績B	B/A	備考
必須	農業用水施設の機能確保 (パイプライン化)	31.7ha	31.7ha	100%	
	農業用水施設の機能確保 (畑地帯の排水路整備)	17.0ha	17.0ha	100%	
地域	遊休農地なしの現状維持	0ha	0ha	100%	
	営農経費、維持管理費の削減	0.7	0.5	140%	
	維持管理費の節減	0.7	0.5	140%	
	担い手への農地利用集積率	10.0	12.3	123%	

(コメント) ※目標が未達成となった指標については、その理由を記載

3 目標の達成状況に関する評価

(コメント)
 農業用水施設の整備の結果、農地面積31.7haにおいて安定的な用水供給が確保され、農業生産性が向上するとともに、維持管理費の節減につながった。更に、耕作放棄地の防止に努めることができた。また、農業用排水施設の整備の結果、維持管理経費の削減につながった。
 これらの状況から、事業目標は達成したと判断する。

4 総合評価

(コメント)

農業経営者の高齢化が進行し耕作放棄地の発生が危惧される中、用排水路を整備したことにより、導水路としての役割を十分に発揮し遊休農地ゼロの現状を維持することができ農業経営における生産性の向上へとつながった。更には、水路の土砂上げ、草刈り等維持管理費の節減も図ることができ、今後担い手の経営農地としても期待できる。

(都道府県の意見)

(コメント)

農業経営者の高齢化及び耕作放棄地の発生が危惧される中、農業用排水施設が整備された結果、維持管理労力の節減及び安定的な用水供給の確保により、農業生産性の向上が図られた。このことから、本計画は津市地区(大里小野田・垂水地区)の活性化に寄与したものであり、今後担い手への農地集積にも期待できるものである。